

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：12501

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(A））

研究期間：2020～2023

課題番号：19KK0299

研究課題名（和文）フィンランド高齢者ケア制度のプライヴァタイゼーションについての比較研究

研究課題名（英文）Comparative study on the privatization of the Finnish eldercare system

研究代表者

高橋 絵里香（Takahashi, Erika）

千葉大学・大学院人文科学研究院・教授

研究者番号：90706912

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 10,700,000円

渡航期間： 16ヶ月

研究成果の概要（和文）：本研究は、フィンランドにおいて進行する高齢者ケア制度のプライヴァタイゼーション（民営化/私事化）について、地域間の比較研究を行うことで、営利企業の論理と家族/親族をはじめとするインフォーマルな論理の接合領域を描き出した。フィンランドの大学によるCOEプロジェクトに参画することで、申請者自身によるフィンランド西南地方の小規模自治体の人類学的調査の成果を他地域と比較した。地理・人口・言語条件の異なる地域を横断的に分析することで、都市/村落間での頻繁な人の移動によって地域間の連動性が維持されている一方で、村落部においても私的ケアの需給/支援状況にはかなり地域差があることが判明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本における北欧型福祉国家についての実証的な研究は、これまで北欧の社会福祉行政の仕組みやサービス内容を日本に紹介するというかたちをとってきた。これらは主に現地研究者による先行研究の咀嚼と分析が中心としている。それに対し、これまで申請者が行ってきた地方の小規模自治体での調査に基づいた研究は、20年近くにわたる長期の参与観察から得たデータであり、現地研究者でもここまでの定点長期調査の例は少ない。また、現地研究者による社会福祉制度や介護サービスについての質的調査に村落部での研究は少なく、申請者の研究は現地研究者に対しても有用な調査資料を提供することができた。

研究成果の概要（英文）：This study depicts the junction between the practice of for-profit companies and informal care practice by family/relatives by conducting a comparative study of the ongoing privatization of the eldercare system in Finland across regions. The results of the applicant's own anthropological research in a small municipality in Southwest Finland were compared with the research conducted by the Center Of Excellence research project (AgeCare) by Finnish universities. Cross-sectional analysis of different geographical, demographic, and linguistic conditions revealed that while the frequent movement of people between cities/villages maintains linkages between regions, there are considerable regional gaps in the supply/support for privatized care among rural areas.

研究分野：文化人類学

キーワード：高齢者ケア 民営化 私事化 フィンランド

1. 研究開始当初の背景

いわゆる「北欧型」と呼ばれる福祉国家体制は、これまで国家をはじめとするパブリックセクターが大きな役割を果たす社会民主主義レジーム [エスピン アンデルセン 2001] として知られてきた。しかし、フィンランドでは 2000 年を過ぎたころから、人口高齢化をにらみ、「大きな国家」を前提とする公的福祉制度の規模縮小が進んでいる。その結果として、これまでは公的な組織が担ってきた高齢者ケアサービスにおいて、二つの意味でのプライヴァタイゼーションが進行している。

一つは**ケア制度の民営化**である。「公的セクターが財政と制御についての主たる責任を引き受け、公的・私的生産者がサービスを供給するという構造に基づいた、より開かれた競争としての福祉ミックス」[Henriksson and Wrede 2008 : 123] の実現が進められている。この改革によってフィンランドの自治体は以前と比べてはるかに多くのサービスを私的セクターから購入するようになっている。もう一つは**高齢者ケア実践の私事化**である。フィンランドでは、「親族介護者」が緩やかに増大している。これは親族を介護する者をケアワーカーに準じる存在として扱い、給与や休暇といった労働の保障を与えるという支援制度によって介護者として認定された人びとである。こうした制度的支援によって家族・親族による介護実践は緩やかに増大してきた。

私企業に代表される民間と、家族・親族に代表される私的関係という一見すると対照的な二つの私的領域は、公的な社会福祉制度の代替案として同時期に浮上してきた。これらの領域はどんな部分で連動しており、どのような論理を共有しているのだろうか。こうした問いを立てた基課題においては、フィンランド南西地方の地方自治体において進行する民営化 / 私事化についての実地調査を軸とした研究計画を構想していた。

しかし、この基課題を国際共同研究に発展させる必要が生じてきた。フィンランドでは、この 10 年で移民・難民が急速に増大している。こうした状況は、ケアのプライヴァタイゼーションと密接に連動している。移民(女性)の多くがケアワークに従事しており、公的組織よりも、コスト減を企図する営利企業によって安価に雇用される傾向にある。また、移民家族においては家族によるインフォーマルケアがより顕著に志向されることも知られている。移民の増加は民営化 / 私事化を促進する傾向にある一方で、排外感情も高まりつつある。こうした変化は、ケアワークの現場にどのような影響をもたらすのだろうか。移民人口の多い都市部の状況と、民営化 / 私事化という概念を通じた比較を行うことで、喫緊の社会的課題をめぐる議論に参加していいのではないかと。

また、フィンランドではエイジングとケアを主眼とした大規模な研究プロジェクトが開始された。Centre of Excellence in Research on Ageing and Care (通称 **CoE AgeCare**) は、フィンランド・アカデミーによって採択された 12 の CoE プロジェクトのひとつであり、2025 年まで継続が予定されている。この研究プロジェクトは、特にグローバル化やデジタル化といった過程に着目しつつ、ケアのニーズ、高齢者のエイジェンシーと平等性に重点を置きながら、エイジングと高齢者ケアの変容について学際的な立場から議論するものである。このプロジェクトにおいても、民営化と私事化は高齢者ケアに変化をもたらす重要な要因として扱われている。本研究計画の海外共同研究者であるヘルシンキ大学のシルパ・ヴレーデ教授は、この CoE プロジェクトにおいて研究グループリーダーを務めている。ヴレーデ教授らのグループによるフィンランド国内での調査が急速に進んでおり、その成果と申請者自身の研究を比較し、位置づける意義は大きい。

以上のような理由により、申請者がこれまでパルガス市という限定的な地域で行ってきたプライヴァタイゼーションという現象についての研究結果を社会のマクロな動向により接近した形での議論へと接続させる必要性が高まった。

2. 研究の目的

基課題は、フィンランドにおいて高齢者ケア制度のプライヴァタイゼーション(私事化 / 民営化)が進む状況を明らかにする実地調査を軸としている。福祉国家の規模縮小が進むフィンランドでは「親族介護」の推進と民間企業のケアサービスの導入が同時に進んでいる。いずれも高齢化に伴う財源・人的資源が不足するなかで、私的領域のリソースへの期待という同じ動機から立ち上がっているものである。だとすれば、拡大する私的領域のなかで様々なアクターはどのよう

に接触しあっているのだろうか。例えば効率性の追求や個々人の自由の尊重といった面において、本来は異質なロジックに基づく家族・親族と市場は、ケアの提供という場においてどのように相反発／融和しているのだろうか。

こうした問題意識にもとづき、基課題はフィンランドの高齢者ケアを事例とし、私事化／民営化と要約される複数の動きが対立あるいは協調しながら公的領域を代替していく高齢者ケアの現場について、実地調査に基づく民族誌的研究を行うことを目的とする。親族介護と民間のケアサービスの同時並行的な進行についての民族誌的な記述から、高齢者の日常生活を成り立たせる多様なケアの配置において企業・親族・高齢者個人が相互に関係しあう様態を理解することで、これまで民営化と私事化としてそれぞれ別個に発展してきた理論を統合する。

これに対して本国際共同研究は、高齢者ケア制度のプライヴァタイゼーション(民営化／私事化)について、**フィンランド国内の地域間比較研究**を行うことを目的とする。これまで、ケアセクターにおける民間企業の進出は、人口規模の大きい都市部において顕著な現象だと考えられてきた。一方で、都市部において親族介護制度は十分に浸透しておらず、どちらかと言えば人的資源の少ない地方部において盛んに行われてきていると受け止められてきた。しかし、シルパ・ヴレーデ教授率いる CoE AgeCare の研究グループによれば、ケア組織における業務の効率化・標準化は第一言語の異なる移民を雇用する都市部においても進められている。また、高齢ロシア系移民のエイジングについての研究プロジェクトからは、家族・親族間のインフォーマルケアがより多く実践されている可能性が示唆されている。このような都市部と村落部の連動性は、上記以外にも存在すると考えられる。そこで、ヴレーデ教授との共同研究という形をとることで、営利企業の論理と家族／親族をはじめとするインフォーマルな論理の接合領域において、人口規模や地理的条件を越えた構造を見出していく。

3. 研究の方法

本国際共同研究は、申請者自身がフィンランド西南地方の村落部において遂行している実地調査の成果について、ヴレーデ教授の研究グループが進める調査成果と比較、検討する過程を中心とする。

(当初は比較対象を首都圏に限定し、ヘルシンキ市周辺での調査への同行も計画していた。また、島嶼部周辺の都市や都市郊外での調査も計画していた。ところが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、2020年～2021年は都市部における実地調査がほぼ不可能となった。一方で、島嶼部ではこれまで通りの調査が進められる組織もいくつか存在した。そこで、申請者自身の調査については南西部の島嶼地域に限定し、CoE AgeCare グループの研究者たちが既に調査を進めている他地域との比較研究のための議論を進めていった)

具体的には、以下の項目について調査・研究活動を行ってきた。

[1] フィンランド西南部の島嶼地方において高齢者向けのフォーマルケア／インフォーマルケアについての実地調査を進める。特に、フィンランドの高齢者ケア制度の私事化／民営化の進展状況について、公的サービス、民間企業、親族介護とその支援の現場において参与観察を遂行する。

[2] Centre of Excellence in Research on Ageing and Care (CoE AgeCare)に参加する研究者たちを訪問し、データの共有や意見交換を行う。ヴレーデ教授がグループリーダーを務めている研究グループ (Research Group 3: Migration, care and ageing) だけではなく、テッポ・クローゲル教授率いるユヴァスキュラ大学のグループ (Research Group 1: Ageing and comparative care policy)、マルヤ・ユハ教授・オウティ・ヨランキ教授率いるタンペレ大学のグループ (Research Group 2: Agency in health, well-being and care in old age) ともコンタクトを取っていく。RG1からは、フィンランドの混迷する医療・介護制度改革の行方や市場化をめぐる状況についての示唆を得る。RG2については、研究グループが長年にわたって行っている高齢者の居住についての質的調査について、申請者の行う村落部の居住環境と比較検討を行う。

[3] 在外研究の成果をまとめ、国際学会においてヴレーデ教授らの研究グループと共同で口頭発表を行う。

4. 研究成果

本国際共同研究において、申請者はフィンランドに渡航し、フィンランド西南地方の村落部に

において実地調査を遂行するとともに、その成果についてヘルシンキ大のヴレーデ教授の研究グループの成果と比較・検討を行ってきた。当初は2020年4月からフィンランドへ渡航予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、出発を8月に延期した。2020年8月から年度をまたいで2021年9月までフィンランドに滞在した。さらに、2022年8月、2023年3月、2023年8月および2024年2月～3月の期間、実地調査によるデータ収集を行った。

渡航中は、ヘルシンキ大学に所属してヴレーデ教授の組織するフィンランドの高齢者ケアをテーマとする広域研究プロジェクト CoE AgeCare に関わってきた。具体的には、COE の会合で複数回の研究発表を行い、グループにかかわる多くの研究者と意見交換を行った。

また、以下の項目について実地調査を行った。

[1] 行政の在宅介護チームにおける組織改革と効率化が現場にもたらした影響についての調査を実施した。2023年1月に SOTE 改革が断行されたのちは、地域統合が自治体レベルの在宅介護サービス現場にもたらした影響に着目した。

[2] 高齢者ケアに関わるサービスを提供する私企業：インタビューを実施した。

[3] 親族介護支援を受ける介護者 / 被介護者について、サービス利用状況の変化にともなうケア実践の調整過程を記録した。

現地研究者との討議および現地調査の結果として、幾つかの論点が見出されてきた。まず、村落部の住環境や高齢期のライフサイクルもまた、都市的な経験とみなせる場合が多いことが明らかになった。第二次大戦後の急激な産業化・都市化の結果、人びとが都市部へ移住した結果として残された住居は、しばしば「夏小屋」というレジャー向け住宅へと転用されていったためである。こうした夏小屋の存在は、多くの人々にとって退職後の居住パターンや親族関係の再編成をめぐる決定に大きな影響を及ぼしている。

次に、行政によるインフォーマルケアに対する支援の在り方は、かなりの程度地域差があることも見えてきた。これは民間サービスの選択肢が少ない村落部においても、行政の対応は必ずしも統一されておらず、格差を生じさせている。ただし、近年の SOTE 改革の結果として、フィンランドは7個の広域自治体に統一された。それぞれの広域自治体においては、中心となる都市を標準とした画一化が進められており、村落部における「ケアの貧困」[Kröger 2022] 拡大が懸念される。

以上のような洞察を踏まえ、計4年間（助成期間を1年延長）の研究成果として、17件の口頭発表（うち国際学会13件）、図書5件（うち英文1件）、雑誌論文3件の成果発表を行った。これらの成果は、いずれも現地研究者との議論を踏まえたものではあるが、複数著者による成果としては、まず、CoE AgeCare の Research Group 2 (Agency in health, well-being and care in old age) を率いるタンペレ大のオウティ・ヨランキ教授との、高齢者の住環境をめぐるエイジェンシーと自己決定、親族関係の個人化についての研究がある。CoE AgeCare のサマースクールに参加し、ヨランキ教授と夏小屋を結節点としたとした親族関係の形成 / 衰退について口頭発表を行った。さらに、この内容を理論的に精緻化したものを European Association of Social Anthropologists' (EASA) の Age and Generations Network (AGENET) conference でも共同で発表を行い、ヨーロッパの老年人類学者たちと議論した。

また、Research Group 3 (Migration, care and ageing) に所属するラップランド大のシャナイ・ベグム氏とも調査データの比較検討を行い、同じ過疎地域であっても地域間でインフォーマルケアのパターンに大きな違いがみられることを確認した。こちらは、International Union of Anthropological and Ethnological Sciences の Inter-congress 2021 において、環境変動についての認識や、高齢者の生活に与える影響の地域的特性についての共同発表に結実している。ベグム氏との研究は、Research Group 1 (Ageing and comparative care policy) による「ケアの貧困」に関する大規模な量的調査結果 [Puthenparambil 2023] と突き合わせることで、非都市圏におけるケアニーズの地域間格差に関する研究を進めていく予定である。

他にも、COE メンバーからの助言を得て、“Publicly Privatised: Relative care support and the neoliberal reform in Finland.” と題する文章を、論集『Managing Chronicity in Unequal States: Ethnographic perspectives on caring』(Laura Montesi・Melania Calestani 編、UCL Press、2021年)に執筆した。これは親族介護支援制度における介護者の認定過程がケアをめぐる地域的な不平等をどのように補っているのか、その実践自体が家族・親族の在り方をどのように形作っているのかを考察する内容である。さらに、CoE AgeCare グループの中間会議である

‘ Longer lives, better care?’ において、マネジリアリズムを実現する ICT 技術の利用実践について、最新の成果発表を行ったほか、CoE の最終年度に開催される国際会議でも口頭発表を予定している。

また、現地に長期滞在したことで、CoE AgeCare グループの他にも、様々な現地研究者との共同研究に着手することができた。まず、トゥルク大学のヘレナ・ルオツサラ教授と、SIEF (The International Society for Ethnology and Folklore) の第 15 回研究大会で、インフォーマルケアに対する行政支援の在り方についての地域差を比較検討する発表を行った。さらに、オウル大学のティナー・スオパヤルヴィ氏の研究プロジェクト Ageing with Nature (<https://www.oulu.fi/fi/projektit/luonnon-kanssa-ikaantyminen>) の一環として、トゥルク大学のキルシ・ソンック・ラウティオ氏と群島地域の自然環境におけるエイジング経験についてのインタビューを実施した。

このように、フィンランド国内の共同研究に参画することで、多くの現地研究者との知己を得て議論を進められたこと、複数の共同研究の端緒を得たことが、今回の国際共同研究の最大の成果である。

【参考文献】

Kröger, T. 2022. *Care Poverty: When Older People's Needs Remain Unmet*. Palgrave Macmillan.

Puthenparambil, M. J. 2023. “Being able to provide sufficiently good care for older people: care workers and their working conditions in Finland” . *International Journal of Care and Caring*, 7(4), 691-707.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件／うち国際共著 2件／うちオープンアクセス 0件）

| | |
|---|-------------------------------|
| 1. 著者名 Suwa Sayuri, Tsujimura Mayuko, Kodate Naonori, Donnelly Sarah, Kitinoja Helli, Hallila Jaakko, Toivonen Marika, Ide Hiroo, Bergman-K?rpijoki Camilla, Takahashi Erika, Ishimaru Mina, Shimamura Atsuko, Yu Wenwei | 4. 巻 91 |
| 2. 論文標題 Exploring perceptions toward home-care robots for older people in Finland, Ireland, and Japan: A comparative questionnaire study | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 Archives of Gerontology and Geriatrics | 6. 最初と最後の頁 104178 ~ 104178 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.archger.2020.104178 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 高橋絵里香 | 4. 巻 13 |
| 2. 論文標題 ひとり生きるために：ケアされる自由のエスノグラフィ | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 臨床心理学 | 6. 最初と最後の頁 92 - 96 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-------------------------------|
| 1. 著者名 Ide Hiroo, Suwa Sayuri, Akuta Yumi, Kodate Naonori, Tsujimura Mayuko, Ishimaru Mina, Shimamura Atsuko, Kitinoja Helli, Donnelly Sarah, Hallila Jaakko, Toivonen Marika, Bergman-K?rpijoki Camilla, Takahashi Erika, Yu Wenwei | 4. 巻 116 |
| 2. 論文標題 Developing a model to explain users' ethical perceptions regarding the use of care robots in home care: A cross-sectional study in Ireland, Finland, and Japan | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 Archives of Gerontology and Geriatrics | 6. 最初と最後の頁 105137 ~ 105137 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.archger.2023.105137 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |

〔学会発表〕 計17件（うち招待講演 2件／うち国際学会 13件）

| |
|---|
| 1. 発表者名 Erika Takahashi |
| 2. 発表標題 The Meaning of 'Emergency': Communication via 'safety phone' under the neoliberal reform in Finland. |
| 3. 学会等名 16th EASA (European Association of Social Anthropologists) Biennial Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1 . 発表者名 Erika Takahashi |
| 2 . 発表標題 Imagining/dis-imagining the future of my home Uncertainty in Finnish older adults ' housing trajectories ' |
| 3 . 学会等名 IUAES (International Union of Anthropological and Ethnological Sciences) 2020 Congress (国際学会) |
| 4 . 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1 . 発表者名 Erika Takahashi and Helena Ruotsala |
| 2 . 発表標題 Staying Home until the End: Rural carescapes in the time of neoliberal shift of Finnish welfare state |
| 3 . 学会等名 SIEF (The International Society for Ethnology and Folklore) 2021, 15th Congress. (国際学会) |
| 4 . 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1 . 発表者名 Mayuko Tsujimura, Sayuri Suwa, Naonori Kodate, Sarah Donnelly, Helli Kitinoja, Jaakko Hallila, Marika Toivonen, Camilla Bergman-Karpijoki, Erika Takahashi, Hiroo Ide, Mina Ishimaru, Atsuko Shimamura, Wenwei Yu |
| 2 . 発表標題 Exploring perceptions toward home-care robots for older people in Japan: a comparative study |
| 3 . 学会等名 16th International Conference of the European Association for Japanese Studies ((国際学会) |
| 4 . 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1 . 発表者名 Erika Takahashi. Shahnaj Begum |
| 2 . 発表標題 Sentinels of Lands and Sea : Impacts of the environmental changes on the daily lives of older adults in Finland. |
| 3 . 学会等名 IUAES (International Union of Anthropological and Ethnological Sciences) Inter-congress 2021. (国際学会) |
| 4 . 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Erika Takahashi |
| 2. 発表標題 Amalgamation of public/private spheres in eldercare |
| 3. 学会等名 Centre of Excellence in Research on Ageing and Care, Winter School (国際学会) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Erika Takahashi |
| 2. 発表標題 The Unoptimized Care at Home: The socio-technical articulation of managerialism in a rural/suburban eldercare sector. |
| 3. 学会等名 CoE AgeCare Mid-Term Congress 'Longer lives, better care?' (国際学会) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Erika Takahashi |
| 2. 発表標題 The Nationalisation of the "Sea Way": A political campaign by private road associations in Finland. |
| 3. 学会等名 European Association for Social Anthropologists 2022 (国際学会) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Erika Takahashi |
| 2. 発表標題 The Outskirts of Families: The relative care supports and the individualization of kinship in Finland. |
| 3. 学会等名 国立民族学博物館特別研究プロジェクト: Family Potential in Uncertain Times: Mobility, technology, and body (国際学会) |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Erika Takahashi |
| 2. 発表標題 Navigating the Edge of the Welfare State: The private road ferries and the political campaign for their nationalisation in Finland |
| 3. 学会等名 Finnish Anthropological Congress 2023 (国際学会) |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Erika Takahashi, Outi Jolanki |
| 2. 発表標題 Summer cottages as a nexus of multigenerational social relations. |
| 3. 学会等名 Centre of Excellence in Research on Ageing and Care, Summer School (国際学会) |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Erika Takahashi, Outi Jolanki |
| 2. 発表標題 More than Home: The collective practice around Finnish summer cottages as a critical element in kinning/de-kinning. |
| 3. 学会等名 European Association of Social Anthropologists' (EASA) Age and Generations Network (AGENET) conference. at Ca Foscari University, Venice, Italy. (国際学会) |
| 4. 発表年 2024年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Erika Takahashi |
| 2. 発表標題 The Protective Wall for/against the Old Age: Deconstructing ageism in post-pandemic Japan |
| 3. 学会等名 The Association for Anthropology and Gerontology, and the Life Course (AAGE) in Santa Fe, NM; United States. (国際学会) |
| 4. 発表年 2024年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 高橋絵里香 |
| 2. 発表標題 独居支援からみる北欧型福祉国家フィンランド |
| 3. 学会等名 第9回学習院大学ブランディング・シンポジウム 第28回生命科学シンポジウム 超高齢社会を考える V <今、問い直す高齢期のwellbeing> (招待講演) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 高橋絵里香 |
| 2. 発表標題 海上の私道 フィンランドのフェリー公営化運動にみる「行政」の外縁 |
| 3. 学会等名 日本文化人類学会第56回研究大会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 高橋絵里香 |
| 2. 発表標題 即興と逸脱：フィンランドの訪問介護サービスにおけるマネジリアリズムの社会技術的編成 |
| 3. 学会等名 日本文化人類学会第57回研究大会 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 高橋絵里香 |
| 2. 発表標題 パンデミックの天候 世界：コロナ禍のフィンランドにおける大気＝霧困気の醸成と森への退却 |
| 3. 学会等名 「感染症の人間学：COVID 19が照らし出す人間と世界の過去・現在・未来」(科研学術変革領域B) ウェビナー (招待講演) |
| 4. 発表年 2023年 |

〔図書〕 計5件

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 Erika Takahashi | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 USL Press | 5. 総ページ数 20 |
| 3. 書名 “Publicly Privatised: Relative care support and the neoliberal reform in Finland.” in Managing Chronicity in Unequal States: Ethnographic perspectives on caring. Laura Montesi, Melania Calestani (eds.) | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 Erika Takahashi, Ikuko Murakami | 4. 発行年 2024年 |
| 2. 出版社 NERKA GRUP | 5. 総ページ数 29 |
| 3. 書名 "Karar / Mudahalenin Sosyal Bicimleri: Finlandiya ' da Demansli Yasillilar icin Toplum Refahinin Duzenlemelerinden Duusuunceler." in Yerinde Yaslanma. Murakami, I. (ed.) | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 高橋絵里香 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 河出書房新社 | 5. 総ページ数 11 |
| 3. 書名 『言葉にならない気持ちをフィールドワークする』 『「心」のお仕事：今日も誰かのそばに立つ24人の物語』 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 高橋絵里香 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 日本経済評論社 | 5. 総ページ数 23 |
| 3. 書名 『個人的な住宅 ハウジングにみるフィンランドの世代間関係』 『家族のなかの世代間関係』（小池 誠・施利平 編） | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 高橋絵里香 | 4. 発行年 2023年 |
| 2. 出版社 学習院大学 | 5. 総ページ数 15 |
| 3. 書名 「《第三講演》独居支援からみる北欧型福祉国家フィンランド」『生命科学と社会問題の多面的議論 生命社会学シンポジウム記録集』生命・情報・社会学講座（編） | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------------------------------|--|----|
| ヴレーデ シルパ (Sirpa Wrede) | ヘルシンキ大学・Faculty of Social Sciences・Professor | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 | | | |
|---------|---------|--|--|--|
| フィンランド | ヘルシンキ大学 | | | |
| フィンランド | ヘルシンキ大学 | | | |
| フィンランド | ヘルシンキ大学 | | | |